



教員や大学生が温かく歓迎してくれたので、
学びやすい環境だった

大学生が自分の意見を積極的に発表している姿を
みて刺激を受けた

進路実現に向けた学びが得られた

大学の授業は、興味のある分野を深く学べ、
価値観や視野が広がった

大学の授業の雰囲気を知る
ことができた

“科目等履修制度” 高校生が「大学の授業」を受けられる！

先取り履修のポイント

- ・ 本学入学後に単位に認定
- ・ 大学生活にゆとりができる
- ・ 学内の施設が利用可能
- ・ 大学生や社会人と一緒に授業を受けられる
- ・ 本制度の入学料免除

出願方法・出願書類

「高等学校等に在学する者に関する
科目等履修生入学願書」を提出

※在学する高等学校等の長の推薦が必要です。お早めにご準備をお願いします。



願書受付期間：2026年2月2日(月)～3月11日(水)

募集要項、開講科目などの詳細はQRコード又は、
山梨県立大学ホームページ「入試情報」から「科目等履修生など」をご覧ください。

<https://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/course-students/>



お問い合わせ

山梨県立大学 教務連携課
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1

✉ shakairenkei@yamanashi-ken.ac.jp

☎ 055-225-5412

令和8年度 高等学校等に在学する者に関する 科目等履修生について（前期募集）

受講料：7,400円（税込） / 1単位（入学検定料・入学料は免除します。）

NO.	科目名	担当教員	科目の内容
1	VUCA時代のキャリアレジリエンス	水上篤（農業生産法人榊hototo代表） 杉山歩（国際政策学部教授）	現代は先の見えない時代（VUCA時代）と呼ばれるようになりました。VUCA時代においては、自らのキャリアを形成していくに際して、様々な困難に直面していくことが予想されます。本科目では、社会の変化にしっかりと対応していくためのマインドのあり方、手法について学びます。
2	問題発見の技法	佐藤文昭 （山梨総合研究所調査研究部長）	「デザイン思考」と「システム思考」の考え方にに基づき、統計データやインタビューなどを通じて一人ひとりの興味関心を深めることにより、これからの時代を生き抜く上で必要な「問いを立てる力」を身に付けることを目的とします。
3	地域資源の保全と活用	今井久（山梨県立大学特任教授） 杉山歩（国際政策学部教授）	持続的な観光開発には自然環境、文化資源を保全しながら開発を進めていく必要があります。本科目では自然や文化の保全と観光をどのようにバランスさせていくかについて理解してもらおうことを目的とし多彩なゲスト講師をお招きし、実際に行っている活動についてお話を伺いながら、自らのように行動していくのかを考えます。
4	地域しごと概論(経営マインド)	手塚伸（山梨県立大学 学長特命補佐）	ものづくり現場の経営者や支援者が、仕事の理念、これまでの好機・危機、未来への戦略、VUCA時代を生き抜くための考え方を語ります。経営者の現場の生の声や受講者への期待を通して、山梨県産業の多様さ・奥深さを理解するとともに、現実の仕事を実感することで今後のキャリアを構想するに当たっての基本的な知識や精神的な糧を得ます。
5	付加価値を生む地域資源の保全とブランド化	舩宗幹治（サントリーブロダクツ㈱） 今井久（山梨県立大学特任教授）	山梨の地域資源である「水」をテーマに、水循環や保全の実例を通じた理解とその資源を価値創造に繋げる取組を学び、自らが地域資源の価値創造を考えることでSDGs 時代の地域創生人材の育成を目指します。
6	トレンド予測の手法	家安香（Edelkoort East㈱代表） 手塚伸（山梨県立大学 学長特命補佐）	不確実な時代であっても、中長期的なトレンドを如何に予測していくか、これをもとにどのような未来戦略を描いていくかに関し、有効な知識とスキルを習得することを目的とします。
7	多文化共生地域課題2 (多文化社会における対人援助/ 外国人と人権)	長坂香織（山梨県立大学特任教授）	多文化化する地域における外国人住民の現状を知り、その諸課題について理解します。世界につながる地域社会の一員として、多文化共生社会の実現にむけた方途について考察し実践する力を身につけます。
8	多文化共生の現場を歩く	長坂香織（山梨県立大学特任教授） 風間絢日（健康科学大学助教）	多文化共生に関わる現場に足を運び、実際に見て、その現場の方の話を聴くことを通じて、多文化共生の現状と課題を肌で感じ、理解します。また、それらの課題解決に向けた現場の対処について学び、多文化共生を自分事として考える姿勢を身につけます。
9	アイデア共創実践	戸田達昭（山梨県立大学特任教授） 加藤聖隆（Mt.Fujiイノベーションエンジニアリング理事）	自分がどのような社会を作っていきたいのか、ということを実業を通じて実現するのが起業です。多くの先輩起業家や専門家たちをメンターとして迎え事業をデザインしていく方法とそれを相手に伝える方法（プレゼンテーション）を学び、実践することを目的としています。
10	社会と政治	申龍徹（国際政策学部教授）	社会制度として政治が生まれ、どのように変化してきたのかを歴史の中から学ぶとともに、現在の社会における様々な政治課題について理解を広げます。
11	災害支援	高取充祥（看護学部講師） 杉山歩（国際政策学部教授） 青柳暁子（人間福祉学部准教授）、他	災害の定義と分類、災害のサイクルから災害の基本について学びます。また、災害サイクルと各期に応じた援助（ボランティア活動を含む）の実際、トリアージの基礎的な知識を学びます。
12	多分野連携イノベーション ※看護学部・人間福祉学部のヒューマンサービスイノベーションコースの科目です。	新藤裕治（看護学部准教授） 高木寛之（人間福祉学部教授）	看護・福祉・保育の専門性の持つ可能性と期待に基づき、専門知識を基盤とする新たな“付加価値”創出の必要性と他分野・他業種に発信・提供するアイデアの着想を得ることを目的とします。他分野の活動を聞き、その中の看護・福祉・教育の専門性への潜在的ニーズを導き出します。
13	ヒューマンサービスイノベーション ※看護学部・人間福祉学部のヒューマンサービスイノベーションコースの科目です。	井川由貴（看護学部准教授） 太田研（人間福祉学部准教授）	デジタルテクノロジーを活用してヒューマンサービス（看護・福祉・保育）の現場における課題解決や新たな“付加価値”を創出した事例を知り、専門分野の現場変革を促す新たなイノベーションアイデアの着想を得ることを目的とします。
14	文化人類学	石場優花（山梨県立大学非常勤講師） 比嘉夏子（山梨県立大学特任准教授）	培ってきた常識や価値観を根底から揺さぶるような「異文化」の事象を取りあげ、そうした事象を理解するための「他者理解」の方法を学びます。今後の人生で出会う多様な考えや価値観を持つ人々と真摯に向き合うために必要なことは何かを考えていきます。
15	科学技術社会論	山崎スコウ竜二 （山梨県立大学特任准教授）	あなたは人になり、物に還る過程にある。では、人と物を切り離す二分法は適切なのか。ロボットやAIが「人になる」一方で「人間とは何か」が問われています。それらの「他者」や人工物の問いかけに耳を傾け、科学技術と社会や人間自身との関係を問い直します。
16	関係学 ※創発デザインコースの科目です。	山崎スコウ竜二（山梨県立大学特任准教授） 七沢智樹（山梨県立大学特任教授） 水上篤（農業生産法人榊hototo代表）	「人と物、身体の関係性」をめぐる多角的に検討する「関係学」です。作ること、制作の知に関わる創発デザインコースや技術との付き合い方のペースとなる、物との豊かな関係性や相手を慮る倫理について考え方を鍛えることを目指し、参加者一同がしなやかな発想を培う目的があります。

No. 1～9は、学生と社会人の垣根を超えた実践知教育プログラム「PENTAS YAMANASHI」の科目です。

授業内容等については、下記ホームページのシラバス（授業計画）を参照してください。

<https://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/course-students/>

